



第七十回 富山県芸術祭主催  
第二十五回 富山県民芸術文化祭参加  
秋季俳句大会 中止

大会募集句の選句、受賞は実施

富山県芸術祭主催並びに富山県民芸術文化祭参加の秋季俳句大会は十月二日(土)午後一時より北日本新聞ホールにて開催の予定であった。

昨年からの猛威を奮っている新型コロナウイルス感染拡大の収束が未だ見通せず、富山県も八月二十日(金)から政府の「まん延防止等重点措置」の適用を受けた。

こうした状況を受け秋季俳句大会は春に続いて、俳句連盟会長の判断で止むを得ず中止となった。

春季俳句大会にて、令和三年度の役員改選の承認がされるべきところ、大会は中止となり総会に諮る事が出来なかった。会則に添って、会長の任命により、堀真智子氏、高田勇氏が今年度より幹事に就任した。

なお、秋季俳句大会募集句五百九十句(二百九十五名)については連盟役員に

より選考され、その特撰句、入賞句の賞状、賞品は直接事務局より発送された。そして十月七日(木)の北日本新聞紙上に入賞作品は掲載され、公表となる。その子細は本会報九十三号に掲載し発表。合同句集(第四十六集)も大会当日配布の予定であったが、事務局より直接発送した。

又、北日本新聞社主催の「越の賛歌」「川・河」作品(投句数 三百九十句)の入賞作品句は十月二十日(水)付け北日本新聞朝刊に掲載され発表となった。

二〇二二年度  
夏季吟行会(予定)  
とき二〇二二年七月十八日(月)  
ところ 射水市高周波文化ホール  
三階会議室  
射水市三日曾根三一二三  
講演なし

令和三年十二月一日発行  
富山市安住町二一四  
〒930-0094 電話(076)495-1144  
振替番号 金沢 五一一七二〇八  
北日本新聞社編集局内  
富山県俳句連盟

富山県現代俳句協会  
秋季吟行俳句大会中止

秋季俳句吟行大会は九月二十三日(木)に黒部市宇奈月国際会館セレネで開催予定だったが、新型コロナウイルス禍により中止となった。

第十五回富山県現代俳句協会  
ジュニア俳句大会

ジュニア俳句大会は、応募句数十二十八句(二十五校)。表彰式は十一月二十日(土)に富山県教育文化会館集会所で行われた。

富山県現代俳句協会会長賞  
大賞

森野稔富山県現代俳句協会会長が講評。席がえは一番後ろまで青葉  
富岡市立伏木小学校四年  
舟本 篤史  
(席がえはワクワクするもの。今度は一番後ろ、新しい席から見える窓には青葉が一杯だ。これからは様々な季節の変化をいながらにして感じられるだろう。直後に感じた一瞬の驚きをあざやかに俳句にした手柄。)

準賞  
炭酸のように消えてく夏休み

南砺市立南砺つばき学舎八年 東 英里香  
(夏休みに入った時の最初の新鮮な感動が徐々に慣れていく過程を炭酸水に言わせている。言われてみればその通り。いつまでも最初の感動を継続することは難しいことであろう。)

富山県現代俳句協会賞  
スポイトで採っておきたい夏の空  
南砺市立并波中学校三年 山崎 結加

(採っておきたいのは青空だろうか。乱雲の白だろるか。楽しい。)  
天の川星が流れるすべり台  
水見市立灘浦小学校五年 北鹿渡 唯奈

(目の前の黒いすべり台と天の川からの流れ星の対比が美しい。)  
きんぎょたちえをかくようにおよいでる  
魚津市立星の杜小学校六年 山崎 莉音

(華やかな色彩と形の金魚の水槽の様子がまざまざと見える。)  
他北日本新聞社賞 五名

二〇二二年度  
総会・俳句大会(予定)  
とき二〇二二年六月四日(土)  
ところ 北日本新聞ホール  
講師「いには」主宰 村上 喜代子 先生  
演題「林火に学ぶ抒情の本質」

秋季俳句大会作品抄

◇連盟選者特選句

義信選	ひとりづつ入れて大暑の検診車	久崎富美子
かつを選	ころ／＼と風に遊びて芋の露	村山 志水
冬青選	秋出水ブッセの空ははるかなり	安居 雅寿
玲子選	水を打つ普羅昔日の句を胸に	田中 憲子
可津志選	ちちる鳴く納屋に出番の無き道具	寺崎 和美
置箱選	八月や平和が平和忘れさす	吉田 憲子
こつき選	出揃ひし稲穂一ト日の句ひあり	平木 丈子
康裕選	閉めにゆく水門ふたつ男梅雨	平野もとみ
久惠選	鐘のなき鐘楼八月十五日	升田 義次
ゆづ子選	夏帽子振りて言葉を省略す	岡本 芙美
城子選	八月や平和が平和忘れさす	吉田 憲子
弥生選	教室に子供歳時記雲の峰	有川 寛
富美子選	逃がしたる一匹に焚く蚊遣りかな	谷 雅夫
美智子選	村じゆうのどくだみ咲いておせい夕餉	白井 重之
洋子選	二百十日四角く豊む明日の服	久保 俊一
直彦選	沈黙で抗う女水中花	森川 敬三
一子選	若き髪吹かれ水平線は夏	有澤 嘉月
重之選	撫子の葉でひらく土佐日記	稗苗 良一
吉章選	赤ン坊を秤にのせる遠郭公	中嶋 禮子
桂子選	涼しさは卓のハーブの匂ふとき	野中多佳子
恵子選	色鳥やいくつも葉処方され	畑 真理子
昭夫選	見送りに出て憐元に秋立てり	島倉 千春
眞知子選	手花火の母の背より子の覗き	浅野喜代美
寿山選	卒寿なお尽きぬ詩情や星月夜	堀 智恵子

◇入賞句

三久選	八月の空八月の祈りなり	石灰 潤子
平太選	鉢巻の木偶が仕掛ける喧嘩山	藤井 詩耕
達哉選	茄子を挽ぐ農薬散布の音近し	小林ふさ子
睦子選	うたた寝も苦吟の汗も知る机	水野 元雄
美知子選	万緑や護岸工事の命綱	小泉 恵子
多佳子選	梨むくや話の行方追ひながら	中坪 達哉
栄子選	卒寿なお尽きぬ詩情や星月夜	堀 智恵子
眞智子選	割箸にもらう水飴雲の峰	平野もとみ
幸子選	卒寿なお尽きぬ詩情や星月夜	堀 智恵子
千鶴子選	農道も今日は駐車可運動会	林 紀男
純子選	賑やかに来て畏まる地藏盆	石灰 潤子
稔選	立てる今歩ける今を紹の小紋	荒田眞智子
とおる選	百貫の御輿の威厳見上げたり	高井 富子
天位⑭	逃がしたる一匹に焚く蚊遣りかな	谷 雅夫
地位⑨	ひとりづつ入れて大暑の検診車	久崎富美子
人位⑨	夏帽子振りて言葉を省略す	岡本 芙美
4位⑦	祈ること多しハンカチ豊みけり	荒田眞智子
庭師	庭師来てよき風生まる夏木立	川上 淑子
立山	立山を登り来し子の大人びて	浅野 義信
閉め	閉めにゆく水門ふたつ男梅雨	平野もとみ
先事	先のことと思ふ夜やちちる鳴く	成瀬 輝代
教室	教室に子供歳時記雲の峰	有川 寛
万緑	万緑や護岸工事の命綱	小泉 恵子
割箸	割箸にもらう水飴雲の峰	平野もとみ
籠り居	籠り居にホウある幸や立秋忌	松原 暢子
喧嘩	口喧嘩出来る仕合せ半夏生	若松 章子
梨むく	梨むくや話の行方追ひながら	中坪 達哉

受賞

○富山県芸術文化協会  
創立五十周年記念功労表彰  
十一月三日(水)富山県芸術文化協会創立五十周年記念式典と表彰式がANAクラウンプラザホテル富山で行われた。  
中坪達哉富山県俳句連盟会長が功労表彰を受賞した。

○立山町教育委員会表彰  
十一月二日(火)町民会館で表彰式が行われ、社会教育・社会体育部門(芸術文化)で白井重之理事が受賞した。

5位⑥	余生なほていねいに生き盆むかへ	能登 恭子
6位⑥	八月や平和が平和忘れさす	吉田 憲子
6位⑥	八月の空八月の祈りなり	石灰 潤子
6位⑥	賑やかに来て畏まる地藏盆	石灰 潤子
6位⑤	特大の七夕飾る警察署	永井 邦子
5位⑤	パイナップルを包む沖縄タイムズ紙	田中 帝子
5位⑤	敗将の塚の草取る村の衆	成重佐伊子
5位⑤	泰然と座る大仏炎天下	坂井二三
5位⑤	新聞紙の兜が眠るハンモック	跡治 順子
5位⑤	帰らぬと決めし子へ書く夏見舞	二俣れい子
5位⑤	何や彼や世話焼きたくて夏休み	室井千鶴子
5位⑤	涼しさは卓のハーブの匂ふとき	野中多佳子
5位⑤	カンナ咲く小学校は廃校に	川上 美佐
5位⑤	手花火の母の背より子の覗き	浅野喜代美
5位⑤	卒寿なお尽きぬ詩情や星月夜	堀 智恵子
5位⑤	ひらひらと記憶欠けゆく曼珠沙華	谷 順子

富山県俳句連盟 越の賛歌百選

兼題「川・河」入選作品〈得点順〉

神通の川幅広げ男梅雨  
源流は立山の一滴雪解川  
鮭のぼる黒部の川に橋いくつ  
鉄橋を貨車すれ違ふ盆の川  
川音に沿うて席あり鮎料理  
渡し舟に自転車乗せて入学す  
晩年も大方見えて天の川  
夏草や如意の渡しは風ばかり  
鮭撲たる母なる川に還り来て  
鱈飛びやかつて連河の木場溜り  
梅雨出水カヌーの湖のうす濁り  
義経の休みし巖に虹かかる  
庄川の若鮎のごと高校生  
幾千の雪解の川の越の国  
テント張る劔岳の見ゆる清流に  
少年の水切りの石飛んで夏  
盆唄をのせて井田川流れゆく  
川風に寿命も延ぶと母昼寝  
小矢部川滔滔たりし晩夏光  
泳ぎしも鮭捕りし日も黒部川  
八月の爆音今にいたち川  
朝曇小川に濯ぐ畑帰り  
芋水車回せし川や母も居て  
内川の秋の潮風川の駅  
ふるさとの川に浮かべて魂送る  
井田川のせせらぎ囁す風の盆  
山車の灯のじむ内川浦祭  
一斉に川の草刈る村の朝  
突堤のしぶきに夏の来ておりぬ  
釣り人の腰で涉りぬ夏の川  
滔滔と大河や雲の峰高し

小幡富貴子  
平譯 敏子  
中陳志美子  
室井千鶴子  
脇坂琉美子  
神田 邦子  
木野本靖子  
酒井 和世  
但田 長穂  
山口 路子  
牧山美佐子  
高橋いほを  
永井 邦子  
船平 晩秋  
飛田雪貌子  
田中 童子  
村山 志水  
杉本 恵子  
西野 睦子  
谷 雅夫  
岡本 芙美  
篠井 恵子  
平木美枝子  
横沢 秀典  
丸田美恵子  
角田 睦子  
二俣れい子  
山崎 和子  
東 靈女  
内橋はるみ  
稲田 節子

この川を芭蕉も曾良もねぶの花  
それとなく翡翠探して川遊び  
鮎眺ねて背に海の色山のいろ  
友を待つみんな花藻の川のぞき  
河越せば富山弁の世盆屋省  
常願寺川晩夏光の乱反射  
橋涼み中洲の太き黒部川  
立山の裾を十筋の雪解川  
詠まれたる早月川も秋に入る  
川べりの地藏菩薩と夕涼み  
川に添ふ越中八尾小鳥来る  
川筋にひらく朝市燕の子  
空の雲河の流れに秋近し  
夕闇を待つ間も目を張る螢川  
しぶき飛ばし蟹追う父子里の川  
水煙に虹生まるるや黒部ダム  
まなうらにあの日あの特川花火  
熊野川長い鮎竿引きを待つ  
野良着洗ひついでに顔も夏の川  
我が郷土の民話と祭あはれ川  
谷川へ五十歩の家夕河鹿  
町中に浜風はこぶ川涼し  
放流の子らの手滑り鱒の稚魚  
黒部川峡の瀬音も秋に入る  
臥してみる越の山河の青嶺かな  
炎天の庄川斜に走る地層  
神通峡川音さやく月の宿  
家持の渡しし春の早月川  
橋に立つ夕夕焼を独り占め  
夏河の風を貰って三千歩  
延槻川越せば母が家霧襖  
鮎はねる川面しずめし夕茜  
越中の山河うるはし天高し  
大夕焼大河静かに海に入る  
蛸や歌碑の眺むる神通川  
満目の緑を映す黒部川

上田 森子  
安居 雅寿  
森 純子  
寺崎 和美  
黒瀬 行雲  
白井 重之  
森野 稔  
石田 玲子  
川上 弥生  
柄沢 恭子  
成重佐伊子  
荒田眞智子  
田上眞知子  
大久保置箔  
細野 千里  
有川 寛  
青木 章子  
坂井一二三  
大谷こうき  
此川由美子  
町田 宙児  
木谷 美以  
平井 弘美  
池崎みき子  
山西 肇野  
小泉 恵子  
河内ゆう子  
塚本 翼子  
坂田 紀枝  
坂田 直彦  
古小路憲子  
坂本 昌恵  
大西 昭子  
升田 義次  
武田 律子  
北川 秀子

鮎釣の父の聖地や黒部川  
歩道の下流るる水の音涼し  
小流れで洗ひて渡す西瓜かな  
枝川の先づ秋めきし水の色  
二上山の溪に幽き滝の音  
庄川の清らかに鮎美味し  
神通川雪の稜線従へて  
鮎躍る川面に劔岳影落し  
扇状地束ねて涼し黒部川  
黒部川うつつて夏の立山連山  
八月の川ごろごろと石ばかり  
泡影のゆっくり消えて川施餓鬼  
ソーラー船涼風つれて連河ゆく  
炎昼の息のむ川面竿しなる  
海士ヶ瀬の義経伝説青時雨  
片貝川大きく育つ香魚かな  
片貝の川の瀬ひかり鮎かな  
万緑や五色のカヌー眺むる  
神代より流れし川か鮎眺ねる  
庄川や課外授業に川遊び  
岩を囓む猿飛峡やななかもど  
黒部川秋澄む奥に巨大ダム  
縁台に足振る姉妹天の川  
いちはやく秋の色のせ黒部川  
千保川の流燈どれも北を指し  
庄川の川風うまし鮎の宿  
称名川の風に沿ひゆく夏帽子  
黒部川穂先穂やか水澄めり  
溪流に揉まれ若魚の男振り  
秋出水防がんと耐え越の川  
新涼や高志を潤ふ黒部川  
上流にまぶしき光の佐々堤  
夏夕焼昔ひよいと眺へた川  
天の川日本海溝眠らせて  
川のひびきそびらに葉掘りにけり  
おのおのの川に位や藤袴

横山 優子  
松原 暢子  
平木 丈子  
中坪 達哉  
内田 邦夫  
北川 越草  
長谷田佳風  
新田 義博  
高井 富子  
能登 恭子  
山崎美江子  
上田日佐鷹  
渡辺 啓子  
堀 真智子  
野中多佳子  
中田 広美  
齊藤由美子  
山西 澄子  
高嶋 幸子  
窪田富美子  
二口わこう  
田中 憲子  
西田 道代  
鹿熊 紀子  
佐山久見子  
吉崎 陽子  
小森登美子  
廣木とも子  
牧野きよ子  
井上 大輔  
福島やす子  
畑中あつき  
尾山勢都子  
本田百合子  
条谷 昌子  
神保と志ゆき

県俳句連盟のホームページ、オンライン句会の紹介と現況

**富山県俳句連盟** 富山県芸術文化会館/文芸/富山県俳句連盟

富山県俳句連盟  
1975年10月26日発足  
会員数504名(2020年8月現在)  
会長 中坪達哉

(オンラインメニュー)  
ホーム 会報  
沿革 入会案内  
NEW とやま 文芸散歩  
お問い合わせ先

(参加者募集中)  
令和元年度定期総会・俳句大会 (R1. 6. 1)

令和元年度秋季俳句大会 俳句大会 (R1. 10. 5)

令和元年度夏季吟行 俳句大会 (R1. 6. 1)

合同句集 (第44集)

立山のふもと町へ水と打、音障

令和3年催し物 秋季俳句大会 俳句募集(オンライン受付可) (終了しました) オンライン俳句会 (11月度)

- 一 県俳句連盟のホームページURL  
: <https://platform.org/course/index.php?categoryid=51>
- 二 主な掲示内容
- (一) 会長挨拶
  - (二) 沿革・歩み: 設立以来の沿革と歩み
  - (三) 会報: 会報のバックナンバー
  - (四) 入会のご案内: 入会申込書
  - (五) オンライン句会: オンライン俳句会(毎月第一日曜日午前)
  - (六) 催し物概況(令和三年催し物)
  - (七) とやま文芸散歩 (北日本新聞掲載のもの)
- 三 オンライン俳句会の案内  
県俳句連盟では、毎月一回オンライン句会(第一日曜日 10時~12時)を実施しています。  
全国で使われている「夏雲システム」を利用してあらかじめ投句・選句し、Zoom会議室を利用したオンラインでの俳句会です。
- 【参加のための条件】
- 一 PC、タブレット、スマホ等インターネットに接続できる環境が必要です。
  - 二 富山県俳句連盟会員の方ならどんなでも参加可能です。
  - 三 会員以外の方は、事務局までメールでお申し込みください。
  - 四 ↓オンライン俳句会参加には(県俳句連盟会員)PWパスワードが必要です。(非会員は参加申込が必要です入会申込みしてください)
  - 五 これまでの俳句会の記録(どなたでもご覧いただけます)
- ※詳細はホームページをご覧ください。  
「お問い合わせ先」よりご連絡ください。

消息

○「なでしこ」句会

十月二十四日(日)  
於 高志の国文学館

越中万葉の地の詩歌の祖である大伴家持を偲び、同館主催行事の一つとしてなでしこ忌(罹麦忌)と称した公開句会。発案の中西進館長ご臨席、事務局は同館水井清課長。

開会挨拶及び進行 中坪達哉会長  
中西進館長賞

篝火や川面目映きなでしこ忌 倉沢 由美

(売比河鶴飼祭)

参加者 十名 見学者 二十名

○「辛夷」年次俳句大会

俳句結社「辛夷」(中坪達哉主宰)の年次俳句大会の表彰式が十月十日(日)に富山市の県民共生センターで行われた。募集句で対応。

令和三年度

辛夷賞 岡田 康裕 小澤 美子

衆山皆響賞 磯野くに子

年次大会句

天位

菜を刻むも飯事めきし夏始 木谷 美以

地位 浅尾 京子 澤田 宏

○第48回 砺波市文化祭俳句大会

十月二十三日(土) 砺波市体育センターで行われた。

中坪達哉県俳句連盟会長選

天位

障子貼り遺影の父母の若返る 島倉 千春

人位

昼の虫ひとひと目を繋ぎ生く 押見南美子

松手人まつ黒な手の夫元氣 窪田富美子

受賞

俳人協会第六十回全国俳句大会

ジュニアの部 小学校  
学校賞 高岡市立伏木小学校 (全国で四校の一つ)

編集後記

長い間、本誌発行に関わらせて頂いて来ましたが、本号にて高田勇氏と交代させて頂きました。ご協力ありがとうございました。今後会報に関する記事がございましたら左記の住所に原稿用紙にご記入下さいましてお送り下されば幸いです。

送付先 高田 勇

〒933-0121

南砺市井波一四八五―一六

FAX・TEL (076) 821-2908

川井城子